

令和 2 年

第 3 回 奥州市立水沢中学校改築
基本構想及び基本計画検討委員会
会議録

令和 2 年 6 月 30 日

奥州市教育委員会

○ 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和2年6月30日(火) 午後6時
閉会 // 午後7時45分
開催場所 水沢中学校 会議室

○ 出席委員の氏名

佐藤孝守 委員長
千葉和仁 委員
朝倉啓二 委員
高橋光緒 委員
菊地栄志 委員
深谷夕子 委員
三浦光章 委員

○ 説明のため出席した職員の職及び氏名

田面木茂樹教育長、千葉昌教育部長、及川協一教育総務課長、佐藤茂利教育総務課長補佐、大沼慶太上席主任

・ オブザーバー出席者

都市整備部都市計画課 小野正樹建築係長、及川信主任技師

・ 計画策定支援受託者

(株)綜企画設計仙台支店、赤沼貞和氏、佐藤卓也氏

○ 次第進行

(委嘱状交付)

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局紹介
- 6 報告
前回会議録の確認
- 7 協議
(1) 基本構想及び基本計画素案について
- 8 その他
- 9 閉会

○ 会議の概要

◎ 委嘱状を新委員へ交付（朝倉啓二委員、高橋光緒委員、菊地栄志委員、深谷夕子委員）

◎ 配布資料確認

◎ 定足数5名に対し、現時点で出席者数は7名、1名は遅れるとのことであり、委員会は成立する旨宣言。

1 開会

2 教育長挨拶

おぼんでございます。本日は忙しい中、委員会にお集まりいただきありがとうございます。

また新たな方々が委員になられたということで、これまでの経緯を説明しながら進めていきたいと考えております。

前は3月に委員会を開催しましたが、まさに新型コロナウイルスが感染拡大していた時期であり、それから3箇月以上かかりましたのは、感染拡大防止対策等の事情があったことによります。

水沢中学校につきましては、建築より長期間を経過し、老朽化が著しく、建替えをしなければならないということであり、新しい学校をどのような学校にしていったらよいかという方向性が大事な部分となります。当然、人口減少などの要因を踏まえて改築を進めていかなければいけないと考えます。

さて、奥州市では「学ぶことが奥州市の伝統であり 未来である」とする基本理念のもと、教育行政を進めているわけですが、水沢中学校の置かれている立場、取り巻く環境をきちっと考えながらコンセプトを決めていくことが一番大事であると考えます。

御存じのとおり、水沢は商業の町、文化の街、そして日高火防祭、『心字の街』、といった伝統があること、そして『三偉人』に代表される考え方や気風があります。

これらをコンセプトにどう反映させていくか。これにより、水沢の伝統を子供達が学び受け継いでいく、というような部分を出せるような学校という部分が大事になります。

そして夢のある学校、入ってきて楽しくなるような学校、そういった部分がアンケート結果でも要望が多く出ています。そういった要望を全て入れることはできませんが、そのエッセンスの部分はどう構想の中に入れるかが大事と考えますので、委員の皆様にはこれから御説明する中で、要望、こうすべきということを出していただき、新しい水沢中学校の姿を決めて、本設計につなげていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3 委員長挨拶

おぼんでございます。昨年度から委員長を仰せつかっておりますのでよろしく

お願いします。私もかつて水沢中学校に勤めたことがありますので、いろいろな思いをもって水沢中学校校舎建築を進められたらと考えています。

水沢中学校といえば何なのかな、どういうイメージが浮かぶかな、といったことを考えながら御意見をいただければと思います。水沢中学校に在籍したお子さんがいなくても、こういうイメージだ、であるとかこうあるべきだなどというものはあると思います。こういうことは言うてはいけないということはありませんので、いろんな角度からお話をいただければ参考になると考えます。

合わせて、今学校にいる、そしてこれから生活するであろう先生方。保護者、子供達のいろいろな意見や考え方を取り入れるような、そういうような形にもっていただければいいのかなと思いますので、様々な意見をいただきけるようお願いいたします。

新型コロナウイルスもなかなか収束しない状況での委員会で、あいにくの天候でもありますので、効率よく、なるべく短時間で進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員自己紹介

5 事務局等自己紹介

6 報告

事務局より、資料1の前回議事録に基づき、これまでの経過について説明した。報告内容について質疑なし。

7 議事

(1) 協議

事務局より、資料2に基づき説明すること、前回了承を受けた基本構想及び基本計画の全体構成・項目立てに、具体の記載を行ったものを資料2として配布しており、詳細については、綜企画設計より、説明する旨述べた。

綜企画設計佐藤氏より、提示した素案について、基本計画案を中心に説明した。

- 委員長 全体について質疑を求めても困ると思うので、まず19ページの諸室構成案について、他に盛り込むべきものがないかどうか。

提示した案の考え方についてはどのようなものか。

→ 綜企画設計佐藤氏 基本的な機能は押さえた構成であり、普通教室や特別教室数は、学校規模に応じ室数が変わるもの。

また、多目的スペースの用途、活用をどのように捉え整備を考えるかが肝要と思われる。

- 委員 私も水中の卒業生である。体育館について、学校整備の基準がどうかかわからないが、体育館の広さ等上限があるものなのか。

例えば体育館であればバスケット部、バレー部、バトミントン、卓球、その他あると思うが、自分の時も恐らく現在もだと思うが、夜間に水沢小学校を使ったり、佐倉河小学校体育館を使ったり、各部で工夫をして活動して

いる。

現在ある体育館が昭和 41 年築ということで、まだ使えるのかわからないが、使えるのであれば、体育館が二つあったら子供達は相当うれしいだろうなと感じている。

現体育館の現状や予算等条件から許されるのであれば、検討材料にあった方が子供達は嬉しいだろうなと考える。

→ 事務局 体育館の広さの確保の仕方によって、一つで足りる可能性もあるが、いわゆる第 2 体育館を整備するといった考え方も一つの案であると考え。例を挙げれば、現在改築整備中の江刺第一中学校の場合、極力既存の体育館の広さを確保したいという、検討段階での御意見を踏まえて、設計に反映させたという事例もある。

具体的には、必要なクラブ活動数、コート面数を検討して、必要面積を検討していく、もちろん補助要件や予算等の制約もあるので際限なくということとはできないが、ニーズのうち反映できるものは極力反映していくことは可能と考える。

- 委員 野球のように専用グラウンドを持つとかということまで考えているわけではないが、既存体育館が使えるのであれば、使った方が子供達が喜ぶだろうというところからの考えである。C 案であればちょうど残せるかもしれないと思ったことによるもの。

駐車場について、どの程度整備すれば適当とするのか。駐車場がいっぱい欲しいという意見が出たことはわかるが、例えば 60 台分の駐車場を整備しても、行事等の時足りるかといえば足りない。であれば、子供達のスポーツを通じて学べる環境を少しでも残してあげたら良いという思いである。

- 委員長 耐震の問題とかこの辺をクリアできるか、校舎を改築して、既存体育館は何年もつか、こうした点は専門家でないとわからない部分である。

一つより二つという御意見もあろうかと思う。私も子供達が部活動場所確保に苦労している状況を承知している。その辺りの事情を考慮していただくと良いかと思う。

- 委員 現在の体育館は、照明が落下したということもあったので、引き続き使用することは難しいと考える。敷地要件ということであれば、2 階建て体育館という事例もあるようだ。部活の場所が取れないという状況はかわいそうだと感じているところであり、御検討いただきたい。

- 委員 普通教室、特別支援教室、多目的スペースについて。今のクラスは一クラス大体 30 人位で編成されているが、これで作り込むのか。それとも増やして、柔軟な編成ができるようにするのか。

というのは、特別支援室は今 3 つとのことだが、様々な配慮が必要な生徒に対応し、クラスを増やす必要が出てくる場合に柔軟に対応できるよう、余力を持った整備も必要ではないか。

→ 事務局 特別支援については最大 7 つの種別があるが、現在の編成を踏まえたスペース確保は必要と考えている。

- 委員長 委員がおっしゃられたように、柔軟な対応ができる間仕切りであるとか、いろいろなことが考えられる。これらは設計段階で工夫いただける部分と捉えるので、御意見を出していただければ、様々対応に知恵を絞っていただき、出来ることもあるかもしれない。
- 委員 現在の校舎、教室の状況をみると、バリアフリー化という視点が重要と考えること。現在車いす使用の生徒がいるが、十分な環境ではない。そういった子供達が安心して通えるような、エレベータ、スロープ等をしっかり整備できれば非常に良いのではないかと考える。
- 委員長 バリアフリーはとても大事なことと感じる。
- 委員 大体揃っていると思うが、防災に関する点で、何か災害が起きたとき、ここも避難所になると思われる。そのための設備、施設に関する記載が見当たらないようだが、そういった部屋があった方が良く考える。
中には、災害が起きた際に、家庭課教室とは別に、地域の人達が煮炊きするような場所を地下に設けている学校もあるようだ。
→ 事務局 諸室構成には記載していないが、18 ページの基本構想の中で、『災害時の防災拠点となることを想定した施設計画とし、十分な備蓄ができる倉庫等も計画する。』という考えを盛り込んでおり、災害対応の際の拠点施設としての位置付けを踏まえた計画としたいと考えていること。
また、胆沢中学校の例で言えば、体育館のすぐ近くに家庭科教室を配置し、災害時の人の動きがスムーズにいくような形の配慮をした計画もあることから、今回の計画についても、こうした考え方を踏まえて検討したいこと。
- 委員 18 ページの第3章に基本構想と書いてあるが、事前配布資料の内容からスリムになっている状態。できれば事前配布のもので検討できればよかった。この場で渡されて意見をと言われても難しいので、留意願いたい。
事前配布の分では避難所とかそうした部分の明記もあったようだ。それについては、今後肉付けされていくこととなるか。
→ 事務局 構成を見直した部分については、基本方針、課題といった項目分けで記述していたが、内容に重複していたり、ポイントが分かりづらいと事務局内で判断したことから、直前に1ページにまとめさせていただいたもの。ただし、記載に漏れている部分について、構想からも外したということではないので、今一度過不足なく見直して盛り込んでいきたい。
- 委員 委員が先程おっしゃたとおり、防災機能というものは必要と考える。水中が今避難場所かどうか把握してないのだが、改築後にはそうした避難場所として役割といった明確なものが必要なのではないかと考える。
そして、そうした利用を想定した時、障がい者であるとか、高齢者への配慮として、エレベータであるとか、停電に備えてスロープを付けるとか、そうした部分の計画への盛り込みを、地域の方々も望んでいるのではないかと考える。

→ 事務局 補足だが、奥州市では第一次収容避難所は地区センター若しくは総合支所庁舎となっている。

学校は大体第2次収容避難所ということで、第1次収容避難所が溢れた場合に避難していただく施設となっているところ、新型コロナウイルス対策で避難所の基準が見直された。

従前1人当たり2㎡というスペースの計算だったものが、1人当たり4㎡となり、当然地区センターでは入りきれないこととなるので、学校を利用するという想定がかなり強くなってきている。

水沢地区は自然災害には強い地域で、浸水想定区域等はなく、一番大きいのは地震と考えられる。校庭は一時的に身を寄せ安全を確保する避難場所として指定されていることから、新しい学校としては、避難場所、避難所両方の機能を持たないといけない。こうした部分は設計の段階できちっと配慮した形で対応したいこと。

● 委員長 大事な点だと考える。水沢地区は地盤が安定している地域なのだそう。とはいえ想定を超える大きな地震が起きないとは限らない状況であり、災害が起きれば、このような広さの施設は、避難所として活用されることが必然ともいえる。今いただいた御意見を設計に反映させていただきたいと考える。

● 委員長 次に20ページの第4章、そして、別綴りのA、B、C案と提示されたものについて。必要の有無、施設配置のエリア、例えば南向きがいいとか、ぜひとも中庭が欲しいとか、生徒が憩う広間が欲しいとか、何でもいなので意見をいただきたい。

● 委員 本校を多くの方が訪れ玄関に入った時に、『中庭』のある風景に水沢中学校らしさを感じると多くの方がお話になる。

以前は文化祭になると、中庭で吹奏楽部の演奏などいろいろな活動をし、周りを他の生徒が囲んで鑑賞したり活用していたことに触れ、いいなという話をされる。

今後改築の際に可能かどうかわからないが、『中庭』は、水沢中学校らしさを感じさせる、ということをよく伺うことを紹介したい。

● 委員長 現在の案にはないが、中庭を盛り込めないかという御意見である。

● 委員長 この配置案では、校舎を建ててから体育館といったように、長期間の工事となるようだが、もう少し早めるわけにはいかないか。というのは、順次進めていくとなれば、工事期間、生徒達が危険に晒される可能性がある。活動も縮小しなければならない。これを短縮するためには校舎と体育館を一緒に建ててしまえば、最低限しのげらと思うが、こうしたことは可能なのだろうか。

● 委員 やはり中学校なので、部活動は中学生にとって大切な部分、改築期間中、活動の制限は全くない訳にはいかないが、できるだけ制限期間が短くなるように、また制限が出る部分は他の施設の優先使用等が可能になるよう配慮いただきたい。

→ 教育長 いただいた御意見のとおりと思う。既存の施設を全て壊して

一気に建てればよいが、財政がこういう状況、また現地改築と決まっていることから、A、B、C案が出てきている。

体育館の部分については、御存じのとおり老朽化が著しいのでこれは早く建替えなければならない。B案、C案では、一部壊して建てて、壊して建ててとなる、その間教室は足りるのか、仮設が必要かとなればその分のコストが上昇することも見込まれる。

例として真城小学校が改築した時は、既存の校舎の前に建てているが、校庭に仮設校舎を建てて、既存校舎を壊しながら行った。

水中の体育館は、解体しないと施設が作れないことになる。それらを含めた工程がトータル 10 年では長い。当局側が言うのもおかしいが、気持ちとしては早くしたい。

新しい学習環境で言えば、先程教室の話もあったが、コミュニティスクールの活動に対応したもの、地域との交流、PTA室といった部分も各学校で必要となってくるかとも思われる。学校現場に地域の人が入ってきて、地域の人と一緒に活動していく、その場所がここであるとなれば、地域ボランティアと生徒たちが一緒に活動していくことが伝統となっていく。

また、いわゆる『水沢の良さ』を活かすような部屋があってもいいかと考える。

- 委員 出来上がりの形からいえばC案が良い。先程の説明ではB案、C案はコストも工期も 1.5 倍と説明があったが、23 ページにあるスケジュールも、校舎は令和 6 年度供用開始となっているが、7 年度にずれるということか。

- 総企画設計佐藤氏 23 ページのスケジュールは当初想定であり、今回お手元の資料内での内容と合致しているわけではない。ただし、工事期間でいうと、ここまで長くかからないのではないかと考える。もちろん選択する改築の方式で変動するものであり、今回はそうした部分も精査して案毎に提示したい。

設計に要する期間も見込む必要はあるが、もっと早められないかという御意見も踏まえて、次回の提示案としたいと考えており、単純に 1.5 倍となるということではないという回答となる。

- 委員長 短くなる可能性はあるか。
- 総企画設計佐藤氏 解体と改築の割り振りを多くしない方が工期は短期になる。現時点で仮設校舎は想定していないが、仮設の校舎を校庭に建てて、解体なり改築を一気に行った方が、もしかしたら工期もコストも圧縮できるということも考えられる。

現在仮設校舎に関する情報を収集しており、今回は仮設校舎を用いる条件も含めて提示することを考えている。

- 委員 中庭について先程話題になった。私が生徒のときは中庭がなかったが、教師として着任した時は中庭ができていて、とても良い思い出が中庭にはあり、捨てがたいなと感じている。

提示されたA案をみると、配置を工夫すれば中庭を創ることができるか

と思われ、ぜひ中庭を活かせるような学校ができればいいなと考える。

- 委員長 21 ページの第4章で平面計画の検討についていかがか。
個人の意見だが、図書室はできるだけ充実させたいと考えること。ただの四角い図書室ではなく、夢や希望があるものであればよい。
- 委員 委員長の意見に賛成である。今の図書室では子供達がちょっと可哀そうである。改築時にはより充実したものにしてほしい。
- 委員長 本日欠席した委員は木の温もりのある学校という考えを何度も話されていた。これを取り入れるのに一番良い場所は図書室だと思っている。図書室が子供達の居場所となるように考えれば、活用も広くできるかとも思う。
- 委員 各部屋にエアコン、冷暖房は付くのか。
→ 事務局 数年前までは、学校にエアコンなんて贅沢というような考えが主流だったが、奥州市でも昨年度小中学校の普通教室等にエアコンを整備したように社会情勢が変わってきた。全国的にみれば、特別教室のほか、職員室のように、日常的に人が長時間滞在する部屋については空調設備を整備する流れが主流となってきたと承知している。
今回の計画においては、この点も必須条件の一つと考えて検討を進めているところである。
- 委員 照明はLEDか。
→ 事務局事務局 そのとおり。
- 委員 トイレは洋式か。昨年、和式トイレを整備した家が1軒しかなかったという話も聞く。
→ 事務局 以前の学校整備においては和式が主流だったが、市内の小中学校では、概ね半分は洋式化しようということで少しずつ改修整備してきている。今回の水沢中学校改築に当たっては、基本は洋式でということになるかと考えている。
- 委員 保健室について、私の在学の頃の保健室はさほど大きいものではなかったが、今のこうした時代、環境の中で、結構保健室に駆け込む子供達も多くなってきていると感じている。以前の保健室と現在とでは、ちょっと様子が変わってきていると考えるが、保健室のスペースはどの位で考えているのか。
それから、生徒を指導する教職員の職員室の環境もすごく大事なものと考える。教える立場の先生方のリラックス、リフレッシュできる環境を備えた職員室でないと、一杯一杯になるストレスもたまると考える。
職員室のスペースであるとか、エアコンなどといった教職員に関する環境充実が将来的にも必要と考える。
→ 事務局 保健室について、以前であれば、広くないスペースで、怪我をしたとか、腹が痛いからというときに使う部屋というのが基本的な使い方だった。しかし現在では、それ以外にも、いわば悩みがある生徒の駆け込み場、として使われるということも重要な機能ということで、素案には明確な記載はないが、そうした役割を踏まえた整備を考えていきたいと考える。

また、職員室の整備につきましても、単に机があり、物を置き、先生方が授業に出ていくだけの部屋、ということだけでなく、先生方が相互に情報交流をしながら、そこからいいアイデアがどんどん生まれるような、そういったリフレッシュできるスペースの確保も必要と考えている。

- 委員 配膳室について、食事をする場所か、これまでどおり教室で食事をとるのか。

→ 事務局 配膳室については、現在給食の搬入出と仕分けの場所となっている。改築においても、集まって食事をとるランチルームのようなものではなく給食の搬入出等の配膳室として考えるもの。

- 委員長 ランチルームのある学校もある。

→ 教育長 この規模の学校ではランチルームの整備は難しい。しかし、それはそれとして、様々な御意見をいただきたい、こうした方が良いのではないかとといったものをどんどん出していただき、全て盛り込めるものではないが、非常に良いアイデアも出ているので活かしたい。

職員室に関しての話題が出たが、私自身の考えでは、執務室は最高にすべきである。先生方の執務環境をきちっとしないと、これは、どの職場、会社でもそうだが、能率は上がらないと考えることによる。

どこまでレベルの整備とするか、皆さんや学校の先生方からの意見を聴きながら、具体的に肉付けを進めていくことになろうかと考える。

教室については、21、22 ページに示しているのはいわゆる標準的な内容である。これに先程御意見をいただいている、コミュニティスクールのスペースを設けるか設けないか、あとは、休憩室、休息室など先生方の休むスペース、更衣室も含めてだが、こうしたものを検討することになろうか。

実際、今の水沢中学校の現状から検討しても、いろいろなことが出てくる。一方、可能ならば、最近整備した学校を見学するのも一つの手かなと考え、事務局にも考えてほしいと話しているところである。

- 委員長 先進校の状況把握も大事と考える。

それから、先程来話が出ている『水沢中学校らしさ』という部分をどう取り込んでいくかもあると考える。

- 委員長 次に 23 ページのスケジュールの部分について。できるだけ早く、あるいは基本的な部分だけはできるだけ早く、といった意見が出ている。24 ページの予算面とも絡んでくるところだが、ここはあくまで検討委員会なので、早くした方が良くといった意見は出していただいてもかまわない。御意見を踏まえて事務局で検討することとなる。

- 委員長 ここまで、19 ページから順に御検討いただいたが、改めて、一通り通してみてもの言い忘れや新しく見つけたこと、御質問等あれば承りたい。

- 委員 先日水沢中学校の生徒の教室の様子を見させていただいた。第一印象は教室が狭いということ。最近の生徒は体格も大きいし、新型コロナウイルス対策のためか、30 人位の生徒がクラスにギュッと収まって狭いところで学習しているなという印象だった。

生徒達が一番長くいる教室なので、明るさとゆとりを持った広さを確保することが必要と考える。

それからバリアフリーの話が出ていたが、多目的トイレ、身障者用トイレについても、ジェンダーフリーなどの関係もあって必須のものとする。

- 委員 13ページの『生涯』を『障害』と記載した誤記について確認されたい。なお、計画の中で『障害』という用語を用いる時には、県でも『障がい』を用いているので、配慮いただきたい。

- 委員 各学年団毎に、自由に使える多目的スペースがあると良いと考える。図面を見ると学習室だけだが、集会、進路相談など何にでも使える、空きスペースがあると良いと考える。

→ 教育長 最近建築した胆沢中学校に行ってみることはどうか。他にもちょっと古くなっているが前沢中学校とか、いろいろあるが、時代の流れの中で、段々変わってきている。

中でも新しい胆沢中学校で、実際使ってみて、ここはこうすればよかったとか、使っている先生方からも出てきているので、参考にしながら良いものを造っていくとよいと思う。

ただ、やればやるほど予算が必要となるので、どれ位が一番良いのかということになる。参考例を見ることで、こういうこともできるのかということも出てくると思う。

- 委員長 例えば真城小学校は会議室等について、地域開放を想定し、教育部分と解放部分を区分できる造りになっていること、前沢小学校では中に大きなホールがあって集会や合唱ができたりというスペースを持っている。胆沢中学校の場合も、様々なスペースを活用しながら、学校と地域が一体となり連携して運営できるような工夫をしている。

これまで建ててきた学校、その良さを引き出しながら、中庭、図書室、保健室とかいろいろ意見が出たので、そういった声をまとめていけたら良い。

- 委員 委員会のこの先の進め方について知りたい。

また、PTA役員から話が出ているが、PTA、事務局も人事異動などで人が変わるので、引継ぎについて配慮いただきたいこと。

それから、先程話が出ていた新しい学校の見学とか、いろいろやりながら子供達にとって良いものを作っていただきたいという意見があったのでお願いしたい。

→ 事務局 まずこの先の進め方、スケジュールについて、予定としては8月末までの中で、残り2回の委員会を開催して計画案を決定したい。日程的に厳しいところがあるがよろしくお願いしたい。

第4回は7月下旬から8月上旬に開催し、今回御意見をいただいた部分や内容精査し反映したものを検討いただくが主題となる。

そこでさらに検討いただいた内容を精査反映した案を、8月下旬に開催予定の第5回委員会で最終的に確認いただくという流れを想定している。

今日の議論の中で、市内で最近整備した中学校の事例見学、胆沢中学

校などの見学を行うかについては、各委員の予定を確認して、もし可能であればスケジュールに入れて、より良いものを作り上げられたらなど考えていること。

引継ぎのことについては、昨年度末までお願いしていた委員からも、同様の話を頂戴していた。新旧委員間の引継ぎの難しさ、事務局側の人事異動で人が変わり、そこで議論が途切れる懸念があるとの話もあった。その点についても間違いのないよう進めてまいりたい。

- 委員長 今日ここまでいただいた意見を取り入れ反映させていくこと。実際に施設を利用し活動している教職員及び生徒、それから保護者の意見を取り入れ、より良いものにしていきたいと考える。

いろいろな御意見をいただき感謝申し上げます。以上で本日用意された議題について終了する。

- 事務局 いただいた御意見について、盛込めるものは盛込み、反映させるべきものは反映させ、また委員会の中で検討いただきたい。

7 その他

事務局より、次回の開催日については、現時点での日程について、この後確認のうえ決めたい旨連絡し、了承された。

[参考]

※注 水沢の街の異称『心字の街』について

水沢は、旧奥州街道の宿駅の一つとして形成され、江戸時代から宿場・街道交通関係や漁網生産等の産業で発展してきた。

町の中心である水沢城と六町（川口町、立町、柳町、大町、横町、袋町）は、防御上の理由と繁栄への願いから「心」の字形を象って整備したものとわれ、異称『心字の街』として、今に歴史を伝えている。

※注 日高火防祭について

近世水沢の歴史は、度々起きた大火との戦いの歴史でもあったが、住民達は、町を守り伝えるべく、心を一つにして困難を乗り越えてきた。

第4代水沢城主留守宗景公の時代（在任1663～1675）、江戸の大火を契機に、水沢でも火消の原形となる組織が生まれた。

その後、第6代村景公（在任1695～1753）の時代、享保年間に3度起きた水沢の大規模火災の教訓から、江戸の町火消組織に習い、水沢の町に火消組を編成したといわれている。

財産や人命をも失う災厄である火事を避け防ぐことは、住民の切実な願いであったが、この地においては、それはいつしか火防祭という祭に結実していった。

現在に伝わる日高火防祭（ひたかひぶせまつり）は、岩手県奥州市水沢で毎年4月29日に実施される火防祈願の祭であり、300年を超える歴史を持ち、祭に使用される囃子は「火防祭の屋台囃子」として岩手県指定無形民俗文化財に指定されている。

祭典は、火消組が創設された六町（川口町、立町、柳町、大町、横町、袋町）の各町組が隊列を組んで運行する形式で、それぞれの町組の基本構成は「町印」「打ちばやし」「囃屋台」の三種の屋台となっている。

現代では、先の六町組に三町組（城内、吉小路、駅前三町）が『囃屋台』のみで加わり計九町組による運行となっていて、運行経路は、旧水沢城跡を起点とし、『心』の字をなぞるように運行されている。

古趣豊かな音曲を奏でる可憐な少女達の乗った九つもの囃屋台の競演は、全国を見ても類例がほとんど無く、まさに水沢が全国に誇る祭となっている。

※注 水沢の三偉人

水沢に生まれ育ち、歴史に名を残す先人のうち、高野長英、後藤新平、齋藤實の3人を指す。

・高野長英は、江戸時代後期の医者、蘭学者。モリソン号打ち払い事件を発端とし、幕府の対外政策を批判し開国を説く著作が広まり、蛮社の獄で弾圧を受け、終身刑となる。

後に火災に乗じて脱獄。薬品で顔を焼き、偽名を使って潜伏しつつ蘭書の翻訳等活動していたが密告され、捕縛時に死去した。

・後藤新平は、明治から昭和初期にかけて活躍した医師、政治家。打ち出す計画の壮かさから「大風呂敷」とあだ名された。

日清戦争において、コレラ等伝染病の蔓延する戦地から帰国する、23万人余りの兵の短期検疫のため、当時世界最大規模の検疫所の設置運営を指揮し、わずか3箇月で検疫を完了させた。

後に台湾総督府民政長官、満鉄総裁を歴任し、日本の大陸進出を支え、鉄道院総裁として国内の鉄道を整備した。関東大震災後に内務大臣兼帝都復興院総裁として東京の帝都復興計画を立案した。

・齋藤實は、明治から昭和にかけて活躍した軍人、政治家。海軍大臣のほか、朝鮮総督として2期任じられ、それまでの武断統治から転換した、発展と融和による文化統治に尽力した。

昭和初頭の混迷期、五・一五事件で犬養毅首相が暗殺された後に、総理大臣兼外務大臣となる。後に内大臣となり、二・二六事件で暗殺された。

※注 市内中学校の普通教室の広さ

- ・水沢中学校 64.38㎡(S38築)
- ・水沢南中学校 63.00㎡(S45築)
- ・東水沢中学校 68.00㎡(H9築)
- ・前沢中学校 68.00㎡(H14築)
- ・胆沢中学校 72.00㎡(H28築)